

2 . "Piano Prayer"

演奏者：吉田 幸代 (Piano)

3 . "Bio-Cosmic Storm" --- Interactive Art with Bio-Sensors and CG

演奏者：塩川 麻依子 (Piano)

CG：中村 文隆

Sensor：照岡 正樹

4 . "Eternal Traveller"

演奏者：寺田 香奈 (光の弦)

篠原 淳子 (Voice)

レクチャー資料にも書いたように、これら3作品は、もともと本ワークショップの企画当初はこれら作品だけの公演を行う、という予定からスタートしたために、他の作曲家の参加に比べて曲数としてバランスを欠いていることをご了承下さい。いずれも、ワークショップタイトル「クラシック音楽とコンピュータ音楽」というテーマを意識して構想し、準備してきた作曲です。それぞれの曲目解説については後述していますので参照して下さい。(長嶋)

吉田幸代 profile

神戸山手女子短期大学音楽科卒業。ピアノを、古瀬村恭子、辻陽子、水野久美、Did keuningの各氏に師事。卒業後、震災チャリティコンサート、兵庫県新人演奏会、新人音楽家のつどい等に出演。また在学中よりコンピュータミュージックのパフォーマーとしても活動し、1996年3月、韓国のソウルにて出演。1998年6月、グループkus-kusを結成、演奏活動を続けている。現在、ピアノとリトミックの指導に当たっている。

中村文隆 profile

青森県生まれ。天文学で学位取得後、1996年から神戸山手女子短期大学情報教育研究センター専任講師。1997年から同音楽科専任講師。山手で長嶋洋一氏に出会い、学生時代からのコンピュータと音楽への興味が融合、以降CGとコンピュータ音楽を組み合わせた作品を発表している。

照岡正樹 profile

京都府生まれ。学生時代からライトショーやインスタレーションの製作を手がける。現在は生体情報のセンシングに興味をもち、音楽などに応用するための筋電(EMG)センサの製作を行っている。アナログ人間。

塩川麻依子 profile

1999年3月神戸山手女子短期大学音楽科ピアノ専攻を卒業。長嶋洋一、富岡健、土井充子、各氏に師事。現在、宝塚中山台コミュニティセンター表現スタジオにて、ピアノ伴奏と合唱指導アシスタントを担当。1999年12月のインターカレッジコンサート(早稲田大)にて、昨年に続き新作を初演した。

篠原淳子 profile

神戸山手女子短期大学 音楽科2年在学、声楽専攻。声楽を松尾明子氏に師事。

寺田香奈 profile

神戸山手女子短期大学 音楽専攻科 修了。姫路市新人演奏会、アンデパンダンコンサートvol.2、神戸山手女子短期大学公開講演会、相愛大学公開講演会に出演。

Eternal Traveller

Live Computer Music

これまで多くの合唱曲を作曲してきた私は、その創作のトリガとして、またテキスト素材として多くの詩集を集めることも趣味の一つとしてきた。詩集をさらっと一読してピンとこない詩はその後作曲に用いることはまず無いために、作品として取り上げたい詩というのは何らかのインスピレーションをもたらす強いインパクトがある。これは逆に、取り上げようと思った瞬間に既に作曲(あるいはその強い意欲)が始まっているようなものであり、その勢いで合唱曲という作品に結実してきたのである。

そんな中で、作曲への何度かの挑戦を退けてきた詩・詩集というものがわずかに存在した。これは、詩として強くアピールしているのに、自分の音楽的技量がそれに見合わないために納得いく音楽が生まれ出てこない、という状況であり、いずれさらに自分が音楽的に成長したらまた挑戦しよう、と棚に上げておく、という「憧れの詩・詩集」というものなのである。そして昨年は遂に、Computer Musicという新しい音楽的語法を身につけてきたことで、20年も秘蔵してきた「お気に入りの詩」で作曲できた、という嬉しい体験を得た。そして本作品もまた、約20年間暖め続け、何度となく作曲に挑戦しては断念してきた憧れの詩(西脇順三郎詩集「旅人かへらず」)を、ようやく音楽の世界に引き出した最初の作品なのである。168の詩からなるこの詩集の世界そのものが、作曲の原動力である。

作曲の作業はまず、岡田倫子さん[京都芸術短期大学日本画専攻科・声優志望で声優専門学校でも学ぶ(1999年1月の段階)]に依頼して、168から厳選した30ほどの詩を全文朗読したサンプリングデータベースを構築することからスタートした。ここから、詩の世界を醸し出すキーワードのフレーズサンプルをKymaとIndyにより制作した。ライブパフォーマンスのイメージは、日本的・女性的な詩の世界を語る「琵琶法師」であり、過去に私の作品で何度かPerformerをして気心の知れている、寺田香奈さんを迷わず指名した。その「楽器」は、世界で彼女がもっともマスターしている、私の制作したオリジナル楽器「光の弦」であり、ここからのMIDI出力情報が、MAXを経由してライブ演奏として音源や詩のフレーズサンプル(Kyma)をトリガして「演奏」する、というのがシステム構成である。

そして背景音響パートCDのために、Voiceとして篠原淳子さんに協力を求めた。今回の公演でサウンドとして届くもののうち、背景音響パートとしては、詩の朗読部分以外の全てのサウンドは、「単純な母音唱法によるシンプルな篠原さんの声」のみを素材としており、他の一切のシンセサイザ等を使用していない。これは音響素材への私のこだわりである。「声」の素材は、クラシック音楽の伝統を尊重してIndy上のSoundeditorによる単純なコンクリートによってのみ制作した。また、多重再生による重ね合わせについては、シーケンサによるDTMのような(個々のサウンドの時間的位置と高さが確定的に配置される)手法でなく、以下のようなオリジナルのCプログラムを制作し、Unix(IRIX)上でランダムに音響生成プロセスを多重生成する枠組みの中で偶然性を重視しながら試行錯誤し、多数の候補から自分の耳を信じて選択する、という作業を繰り返した。

```
#include <signal.h>
#include <malloc.h>

void main(int argc, char** argv){
    char filename[80], option[80];
    int fg,fg_old=0;
    srand((unsigned)time(NULL));
    strcpy( filename, "player" );
    while(1){
        g = (int)((double)rand()/327.68);
        if(fg>40) sleep(4);
        else if(fg>15) sleep(3);
        else sleep(2);
        try:
        fg = (int)((double)rand()/327.68/4.55);
        if(fg==fg_old) goto try;
        else fg_old=fg;
        switch(fg){
            case 0:
                if( fork() == 0 ) {
                    strcpy( option, "a-1" );
                    execl( filename, filename, option );
                }
                break;
            case 1:
                if( fork() == 0 ) {
                    strcpy( option, "a-2" );
                    execl( filename, filename, option );
                }
        }
    }
}
```